

商工建設常任委員会資料

令和元年10月31日
県土整備部

目 次

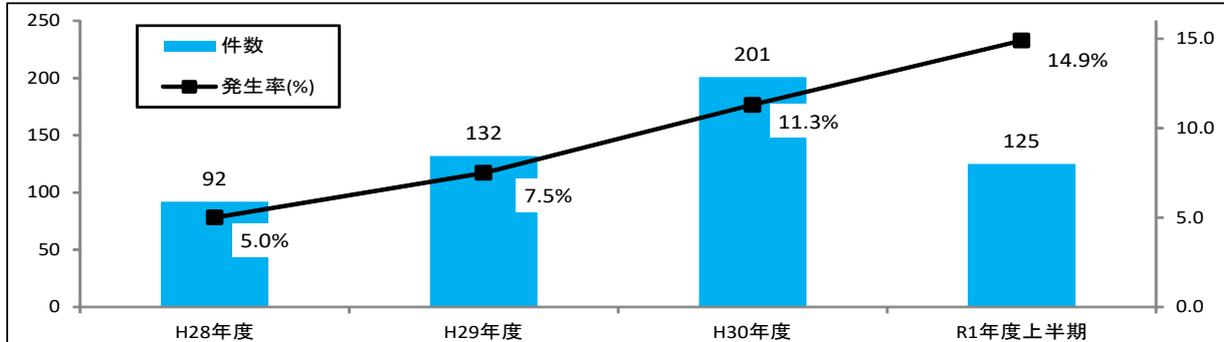
1	不調・不落対策の実施状況について	-----	1
2	宮崎駅西口駅前広場整備事業について	-----	4

不調・不落対策の実施状況について

環境森林部
農政水産部
県土整備部

1 不調・不落の発生状況

(1) 公共三部の発生状況



(2) 各部の発生状況 (令和元年度上半期)

環境森林部 27件(37.5%)、農政水産部 28件(18.3%)、県土整備部 70件(11.4%)

(3) 不調・不落の多い工事 (公共三部125件のうち)

- ①業種別：土木一式 (65件)、とび・土工 (18件)、建築一式 (10件)、管 (8件)
- ②価格別：1500万円未満 (44件)、1500～3000万円 (31件)、3000～7000万円 (40件)、7000万円以上 (10件)
- ③内容別：営繕工事 (23件)、治山工事 (17件)、林道工事 (10件)、河川工事 (10件)、農業用管水路工事 (9件)、災害復旧工事 (8件) ※重複あり

2 不調・不落対策の実施状況

(1) 特例措置の状況 (令和元年5月～)

特例措置	内容	実施状況 (9月末まで)
現場代理人の常駐義務緩和	一定の要件を満たす場合には、2か所の現場代理人の兼務が可能	8件
施工箇所が点在する工事の間接費の積算の適用拡大	点在箇所の間隔が1kmに満たなくとも、一定の要件を満たす場合には、共通仮設費、現場管理費を箇所ごとに算出	49件 (1km以上含む)
余裕期間制度の活用拡大	工事開始前に建設資材や技術者、労働者の確保等の準備を行う「余裕期間」を、4か月を超えない範囲で設定	79件 (4か月以内)

(2) 新たな対策の追加 (令和元年9月～)

- ①土木一式、営繕工事関係Cクラス業者への最新入札情報のメール配信
- ②営繕工事関係Cクラスの応札期間の拡大

3 今後の対策

技術者不足や条件不利工事の敬遠が、不調・不落の要因となっていることから、次の対策を実施する。

- ①配置予定技術者の専任要件の緩和 (別紙1)
- ②総合評価落札方式における受注状況算定の特例措置の拡大等 (別紙2)

配置予定技術者の専任要件の緩和について

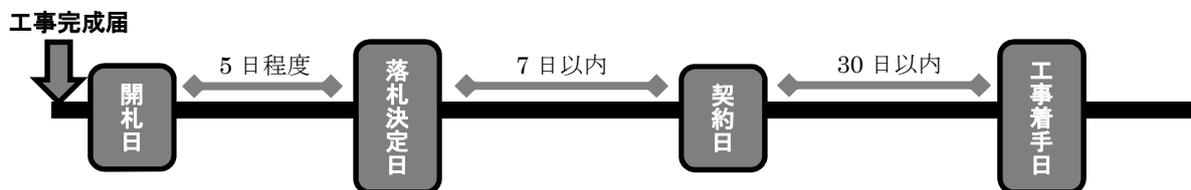
1 趣旨

入札の不調・不落が増加する中、監理技術者等の効率的な配置を可能とするため、入札契約時の配置予定技術者の専任要件について見直しを行う。

2 改正内容

(1) 現行

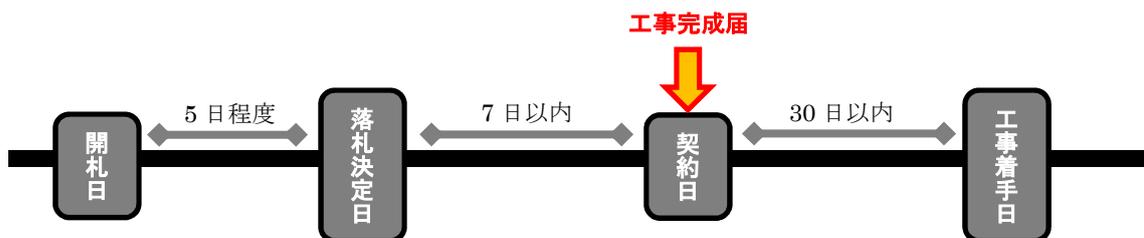
本工事の配置予定技術者が、すでに別の工事（手持ち工事）の監理技術者等となっている場合、当該工事の完成届を開札日の前日までに提出していなければ、本工事の監理技術者等となることはできない。



(2) 改正後

本工事の配置予定技術者が、すでに別の工事（手持ち工事）の監理技術者等となっている場合は、当該工事の完成届を契約日までに提出し、工事着手日までに引渡が完了すれば、本工事の監理技術者等になることができる。

なお、落札決定日後に要件を満たさないこととなったときは、落札決定の取消や契約解除等を行う。



3 改正による効果

同一監理技術者等による新たな工事への入札参加機会が12日程度拡大する。

4 適用

令和元年12月2日以降に開札を行う工事に適用する。

総合評価落札方式における「受注状況算定の特例措置」の拡大等について

1 趣 旨

「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」に伴う予算増により、環境森林部、農政水産部発注工事で不調・不落が高い水準で発生している。また、応募業者が受注状況（K値）を考慮して、工事を選別する状況も生じている。このため、不調・不落対策として、受注状況算定に関する特例措置の拡大等を行う。

2 不調不落対策について

(1) 受注状況（K値）の特例措置の拡大

(現行)

・平成31年2月15日～令和2年3月31日に入札公告又は指名通知を行う災害復旧工事は、「受注状況」算定の「過去1年間の受注額」に含まれない。

(改正)

・現行の対策に加え、環境森林部、農政水産部が発注するすべての工事（漁港漁場工事を除く）については、「受注状況」算定の「過去1年間の受注額」に含まれない。

(2) 受注状況（K値）評価基準の緩和

(現行)

・総合評価落札方式の入札において、「受注状況」が1を超えると評価値を-10とする。

(改正)

・総合評価落札方式の入札において、「受注状況」が1.5を超えると評価値を-10とする。（公共三部共通）

$$\left[\text{受注状況 (K値)} = \frac{\text{過去1年間の受注額}}{\text{過去5か年度の平均受注額}} \right]$$

3 効 果

- (1) 環境森林部、農政水産部の発注工事においては、「受注状況」にかかわらず工事を選定できるため、入札参加意欲の向上が期待される。
- (2) 現状で「受注状況」が減点評価を受けている業者の入札参加意欲の向上が期待される。

4 適 用

令和元年12月2日以降に入札公告又は指名通知を行う工事に対し、当分の間、運用する。

宮崎駅西口駅前広場整備事業について

都市計画課

1 現状

宮崎駅西口駅前広場の整備事業について、今回、広場内のシェルターや舗装などの具体的な施設の平面計画を決定した。

2 施設の配置等について

(1) シェルター

- ・周辺施設との調和を考慮し、シンプルなデザインを採用し、屋根は白い膜屋根とした。

(2) 広場内の舗装

- ・広場内の舗装材は、基本、平板ブロック系を使用する。
- ・高千穂通から駅までの連続性を確保するため、交差点部の自然石舗装は残し、中央通路の舗装材は、自然石系を使用する。
- ・「にぎわい・交流空間」の一部には、レンガ系の舗装材を使用する。

(3) 植栽・照明

- ・緑陰の確保や高千穂通からの景観に配慮し、必要な植栽を残し活用を図った。
- ・「にぎわい・交流空間」は、「あみーろード」への動線形成を考慮し、植栽、照明を1列ずつ配置した。

3 今後の予定

平面計画に基づき工事発注に向けた準備を進め、今後、工事の入札公告を行い、来年秋までの完成を目指す。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
駅前広場再整備	測量、検討委員会 基本計画策定	詳細設計 工事	
複合ビル建設 (民間事業者開発)	詳細設計、建物取壊	工事	★ 秋OP(予定)

<平面計画>



平板ブロック系イメージ
(撮影場所：宮崎駅西口KITENビル前)



レンガ系イメージ
(撮影場所：橋通3丁目交差点)



シェルター (通路部屋根) イメージ



自然石系イメージ
(撮影場所：宮崎駅西口駅前広場)

<イメージパース図>



※今後の工事により、若干の変更を生じる場合があります。
また、民間事業者が施工する大屋根などは、現在、設計中ですのでイメージ図とは異なります。